

第6回 コミュニティ・スクール推進委員会

(学校運営協議会) 議事録

記録 東

平成29年11月27日 (月) 18:30～

東柏ヶ谷小学校 ランチルーム

1 コミュニティ・スクール (CS) 推進委員会委員長より

前回の学校運営協議会から今日までの間に、市民レクリエーション、子育て交流会、新体力テスト大会等の学校と地域の交流の場面があった。

2 学校長より

海老名市教育委員会より「海老名型コミュニティ・スクール」のパンフレットを発行予定。
東柏ヶ谷小の学校運営協議会の様子の写真が掲載されている。

3 学校から

(1) 「こんな東柏っ子にしたい」の報告

あいさつを習慣化するためにはどのような取り組みが必要か。

保護者・家庭

- ・大人が挨拶をできるように。子どもは大人の姿を見るということから、それぞれのコミュニティの中で挨拶ができるように。
- ・簡単な(覚えやすい)標語をつくる。

地域

- ・知らない人や認識していない人には挨拶することを躊躇してしまうため、挨拶をしやすいアイテムがあるとよい。「安心できる人」の象徴としてワッペンを作成し、つけてもらう。挨拶することに達成感をもたせ、習慣にしていく。もちろん、大人同士も気楽に挨拶ができるようになるとうい。

例 丁目毎に色をつけると挨拶をすすんで行ったり、地域に愛着がもてたりするのではないか。

- ・ゴミ拾い活動等を通じて自然と顔見知りになったり、あいさつ運動が広がったりする。地域と保護者とのかかわりは丁目毎に限られることが多い。

学識経験者より

- ・継続性をもたせるためには、共通の目的をもつことが必要。
- ・大人の意識をどう維持させていくかが重要。東柏のあいさつに関する諸活動に賛同する人を公募する。賛同できる人にワッペン等を配布。
「安心感」は非常に重要である。安全な人同士のコミュニケーションが生まれる。
- ・行動(アクション)が必要になるため、1年間で数回の活動に取り組むことが重要である。
- ・地域のよさを子どもたちにどれだけ伝えられるか。挨拶+一言でそれが伝わるようになればよい。3学期から即実践していき、フィードバック、ブラッシュアップして来年へとつなげていく必要がある。

(2) 来年度の活動教室について

- ・本年度は、第4学年が2学級のため、「児童会室」が使用できている。
- ・子どもたちが自由に話せる、居場所ができるとうい考えから、児童会室を使用することを決めた。学校側としては児童数により教室の配置変更が考えられる。そのため、環境を整えたとしても中途半端で終わってしまうため、確実な「拠点」として準備することは可能なのか。
また、地域の人や保護者が常駐できるシステムをつくり出すことで、要支援の児童のケアや休み時間等の居場所として活用できないか。
- ・「行きたい」と思える教室にする必要がある。(行事案内や各団体の情報)自治会だよりで地域の会社や企業の業務内容を公開している。

→来年度も曜日や時間を決めて、児童会室を利用する。

(火曜ロング昼休み時に代表委員会があるため、配慮しながら使用していく)

4 連絡

東階段踊り場のCSコーナーについて

→地域の方や保護者の方に協力いただいた学習内容について児童にも伝える。

地区学力向上シンポジウムの開催について

→今週中(12/1)までに参加の意思を学校(CS担当)まで連絡。

校長がパネリストとして登壇予定。内容は学校運営協議会について、社会に開かれた教育課程において学力がどう身につくか。

PTAより

1/17 グラウンドゴルフ大会 今年度もご協力よろしくお願ひ致します。

その準備に使用するトラックを貸していただける方を知っている場合はご一報ください。